



全国集火式・開催都市聖火リレー

2021年8月16日に集火された「宮城県の火」は、20日に東京の迎賓館赤坂離宮で開かれた「集火式」で、全国47都道府県から集まった火とパラリンピック発祥の地イギリスで採火された火と一つになりました。あいにく新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の延長により、本来予定されていた公道を走るリレーは中止となってしまいましたが、聖火はその後別の形で都内を巡り、24日の開会式で、多くの人がつないできた思いとともに聖火台に灯されました。





Share Your Light

あなたは、きっと、誰かの光だ。



御 挨 拶

宮城県企画部オリンピック・パラリンピック大会推進局長
大山 明美



たくさんの思いを一つの火に

東京2020パラリンピック聖火リレー宮城県聖火フェスティバル集火式並びに、県内の一連の行事につきまして、新型コロナウイルス感染症が広まる中、皆様の御協力のもと、無事に終えることができ、このように記録誌を発刊できますことを大変うれしく思っております。東京2020パラリンピックでは、聖火リレーは競技会場のある1都3県で実施され、その他の競技会場のない43道府県では、各地域で聖火の種火として採取した火を道府県ごとに一つにまとめて、東京都に送り出すこととなりました。本県では、「宮城県の火」を作り上げるにあたり、パラリンピックの精神に相応しいものとするため、「地域バラスポーツの振興」、「持続可能な地域社会の実現」、「地域共生社会の形成」の3つの柱を置き、多くの県民が関わっていただけるよう、取り組んでまいりました。他県では見られない独自のバイオガスの製造や聖火皿の製作、県内各9市町で様々な工夫を凝らした採火イベントを実施し、結果として、年齢・性別・障がいの有無を問わず、多くの県民に御参加いただき、一人ひとりの思いのこもった「宮城県の火」を送り出すことができました。改めまして、この企画に御賛同いただき、御協力を賜りました多くの方々に心から感謝とお礼を申し上げます。今回のこの取り組みが、宮城県内における「共生社会」の実現の一助となることを願い、発刊の挨拶といたします。

令和4年1月吉日

東京2020パラリンピック聖火リレー 宮城県聖火フェスティバル記録誌

CONTENTS

全体概要	03
採火式	05
2021年 8月7・16日 岩沼市	06
8月12日 気仙沼市	07
8月14日 角田市	08
8月14日 加美町	09
8月15日 仙台市	10
8月15日 石巻市	11
8月15日 東松島市	12
8月15日 大崎市	13
8月15日 亘理町	14
集火式(8月16日仙台国際センター展示棟)	15
バイオガス出前講座	21
5月10日 仙台市/上愛子小学校	22
5月15日 仙台市/ボッケの森「森のレストラン」	23
5月19日 南三陸町/志津川高等学校	24
6月2日 加美町/宮崎小学校	25
6月4日 角田市/北郷小学校	26
6月14日 東松島市/奥松島縄文村歴史資料館	27
聖火皿製作イベント	28
5月16日 東松島市/奥松島縄文村歴史資料館	29
5月26日 仙台市/西多賀支援学校	30
資料編	31

東京 2020 パラリンピック聖火リレー全体概要

オリンピック選手村閉村翌日からパラリンピック開会式に向け、以下の流れでパラリンピック聖火リレーを展開

聖火 フェスティバル

2021年8月12日～16日

各道府県

各道府県 実施

- 採火(式) 各道府県それぞれの共生社会への思いが込められた火を独自の手法にて採火
- 聖火ピジット 採火した火を各道府県内の各所で任意に展示
- 出立(式) 各道府県が採火した火を開催都市東京へ送り出すセレモニー等を実施

2021年8月17日～20日(各都県1日/4日間)

競技開催都県・大会組織委員会 共同実施

競技開催都県(静岡県・千葉県・埼玉県 / 東京都)

- 採火式 競技開催都県それぞれの共生社会への思いが込められた火を独自の手法にて採火およびセレモニーを実施
- 聖火ピジット 採火した火を競技開催都県内の各所で任意に展示
- 聖火リレー 競技開催都県内の各所で聖火リレーを実施
- 出立式 競技開催都県が採火した火を開催都市東京へ送り出すセレモニーを実施

2021年8月19日

イギリス ストーク・マンデビル

大会発祥の地 イギリスのストーク・マンデビルにて聖火フェスティバルを実施

集火式

2021年8月20日

開催都市(東京都)

東京都・大会組織委員会 共同実施

- 集火式 ALL JAPAN(各都道府県)の思いがこもった火とストーク・マンデビルの火が、パラリンピック開催都市である東京に象徴的に集まってくるセレモニーを実施

開催都市内 聖火リレー

2021年8月21日～24日(4日間)

開催都市(東京都)

東京都・大会組織委員会 共同実施

- 聖火リレー 新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、公道での聖火リレーを取りやめ、各地で点火セレモニーを実施

開会式

2021年8月24日

- 会場 オリンピックスタジアム(国立競技場)

宮城県パラリンピック聖火フェスティバル概要

イベントコンセプト

地域 パラスポーツの 振興

- ・東京2020パラリンピック大会の
気運醸成
- ・障がい者スポーツの啓発・普及

地域共生社会の 形成

- ・障がいを持つ方に対する
理解促進
- ・子どもたちも含む多くの
方々の交流促進

持続可能な 地域社会の実現

- ・子どもたちの環境教育の促進
- ・環境エネルギーへの理解・
普及促進

採火式

目 的	県内各9市町でそれぞれパラリンピックや共生社会への思いがこめられた火を採火する。
実施期間	2021年8月7日(土)～16日(月)
実施市町	9市町(仙台市、石巻市、気仙沼市、角田市、岩沼市、東松島市、大崎市、亶理町、加美町)

集火式

目 的	県内各9市町で採火した種火を集火し一つの火とすることで、「宮城県の火」を誕生させる。
実施日時	2021年8月16日(月) 18:00～18:30
実施場所	仙台国際センター 展示棟1
参集範囲	採火実施市町、県・仙台市障害者スポーツ協会、東北大学、出前講座・聖火皿製作イベント実施関係機関(実施学校・施設、障害者就労支援施設等)等

バイオガス出前講座

目 的	「宮城県の火」の燃料となるバイオガスを実際につくることで、子どもたちを中心とした環境教育の推進を図るとともに、パラリンピック競技への関心を高める。(製造したバイオガスは、集火式にて聖火の燃料として使用)
実施期間	2021年5月10日(月)～6月14日(月)
実施場所	5市町(仙台市、角田市、東松島市、加美町、南三陸町)で6回実施
協 力	国立大学法人東北大学

聖火皿製作イベント

目 的	集火式にて使用する聖火皿を、地域の子どもたちも交えて縄文式土器で製作し、製作活動を通してパラリンピック競技大会への関心や気運を高めるとともに、地域での交流を深め、共生社会の推進を図る。
実施期間	2021年5月16日(日)及び26日(水)
実施場所	仙台市及び東松島市

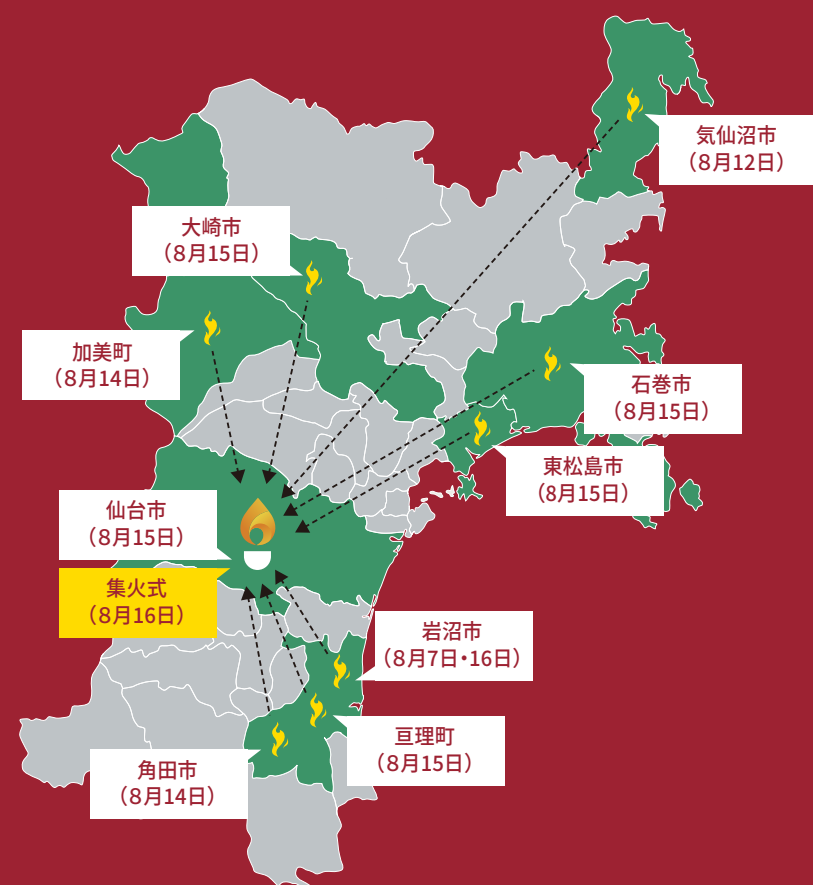


東京2020パラリンピック聖火リレー 宮城県聖火フェスティバル

採火式

開催期間：2021年8月7日(土)～16日(月)

県内各9市町において、それぞれ工夫を凝らした採火イベントが行われ、
多くの人々の思いの込められた火が採火されました。そして採火された9つの火は、
8月16日に開催された「集火式」の会場へと運ばれました。



岩沼市

日時：2021年8月7日(土)10:00～、8月16日(月)14:00～
会場：(7日)玉浦西大樹公園、(16日)岩沼消防署
参加者：(7日)岩沼市立玉浦小学校5、6年生16名、育成会役員16名
(16日)岩沼市立玉浦小学校5年生1名、6年生1名



参加者みんなで記念撮影



ボッチャ体験。意外に難しい！



ゲームは白熱し、大いに盛り上がりました



マイギリ式による火起こしの説明がありました



この日は湿度が高く、なかなか火が起きません



無事火を起こすことができました！



起こした火は消防署へ一度預けます



火は後日、消防署から代表の2人へと託されました

みんなでパラリンピック競技に親しみながら

岩沼市では8月7日に事前に種火を起こすイベントを行い、その種火を岩沼消防署で保管した後、16日にランタンに種火を移すことで採火を行いました。7日は時折雨の降る不安定な天気ではありましたが、屋外に張ったテントの下、玉浦小の5年生と6年生が交代でマイギリ式により火起こしに挑戦。湿度の高い中かなり苦戦を強いられましたが、6年生チームがイベントの最終盤でようやく成功し、種火は消防署員へと引き継がれました。一方、火

起こしを待つ間は、パラリンピック競技でもある「ボッチャ」を体験。そのゲーム性の高い競技に、児童も育成会役員も大盛り上がりで熱中した様子でした。16日は集火式へと火を運ぶ代表に選ばれた玉浦小5年生の今充希さんと同6年生の吉岡詩織さんが消防署員からランタンへと移した火をしっかりと受け取り、集火式の会場である仙台国際センターへと火を運んでくれました。

参加者の声



玉浦地区子ども会育成会会長
小林 達夫さん

パラリンピックの自国開催というありがたい機会に、このような形で岩沼市も関わらせていただき光栄に思います。またマイギリ式という難易度の高い火起こしに集中して取り組む子どもたちの横顔を頼もしく感じました。



玉浦小学校6年
佐藤 美結さん

ボッチャは以前、学校で福祉について学んだときに体験していて今日で2回目でした。でも全然得点することができず、楽しさと同時に奥の深さを感じました。またマイギリ式の火起こしは大変で、手が痛くなりました。



玉浦小学校5年
今 充希さん

代表を務める経験があまりなかったので、声をかけてもらったときは「やったー！」と思うと同時に緊張もしました。普段はスポーツ少年団でサッカーをやっているのですが、パラリンピックではブラインドサッカーが気になります。



玉浦小学校6年
吉岡 詩織さん

大勢の前に立つことは緊張しますが、栄誉なことだと思うので頑張りたいです。普段は陸上をやっているのですが、パラリンピックでもさまざまな陸上競技があるので、見るチャンスに恵まれたらぜひ見てみたいと思います。

気仙沼市

日 時：2021年8月12日(木)10:00～
会 場：「気仙沼市市民福祉センターやすらぎ」多目的ホール、中庭
参加者：宮城県立気仙沼支援学校 生徒18名
気仙沼市障害者スポーツ協会 会員8名



会場の「気仙沼市市民福祉センターやすらぎ」



菅原茂気仙沼市長より開会の挨拶



マイグリ式による火起こしのレクチャー



火起こし器の回転に苦戦中



一方、乾電池の上にアルミ箔を置いて火を起こす電池式ではスムーズに火が起こせました



起こした火を一旦ろうそくへと移しセレモニーへ



最後に4グループそれぞれの代表者が起こした火をランタンへ移し、セレモニーは終了しました



共生社会への思いを採火に託して

霧雨の中、この日の採火イベントは建物内多目的ホールとテントを張った中庭にて行われました。開会の挨拶では菅原茂気仙沼市長が、トリアスロン女子代表として気仙沼市出身の谷真海選手がパラリンピックに出場することに触れつつ、「立派な火を創り出し、東京へ送り届けたい」という思いを表明。その後参加者は4つのグループに分かれ、マイグリ式と電池式による火起こし

を行いました。湿度の高い中での火起こしに各グループとも苦心しましたが、それぞれ火種をつくることに成功。息を吹き込みながら火口へ火を移し、立派な種火をつけることができました。最後はグループの代表者4名がランタンへ火を移し、採火イベントを終えました。

参加者の声



気仙沼支援学校
主幹教諭
千葉 圭一さん

本来であれば公道での聖火リレーなどが予定されていましたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延により叶わなかったことは残念でした。しかし自分たちが起こした火が東京へ運ばれるという役目を、大変光栄に感じています。生徒たちも今日の体験を通じてパラリンピックを身近に感じる、良いきっかけになったのではないかと思います。



気仙沼支援学校
高等部
小野寺 駿弥さん

マイグリ式での火起こしはなかなか火が起こせなくて大変だったけれど、電池式火起こしで無事火をつけることができました。パラリンピックはこれまで見たことがなかったけれど、今回は気仙沼出身の選手がいることもあって、トリアスロン競技が気になっています。自分たちで起こした火が東京に行くのは感慨深いうれしいです。

角田市

日 時：2021年8月14日(土)11:00～
会 場：スペースタワー・コスモハウス宇宙っ子テラス広場
参加者：角田宇宙センター所長 植田修一さん
角田市立角田小学校6年 遠藤明優南さん



事前にJAXA 角田宇宙センターで種火を採取しました



会場で種火採取の様子が紹介されました



緑ある車いすバスケットボール女子日本代表チームから大会に向けた抱負が映像で紹介されました



黒須貴角田市長、植田 修一角田宇宙センター所長、角田小6年遠藤明優南さんによる採火



事前に採取した種火をランタンから聖火皿に移します



さらに集火式へと運ぶランタンへ種火を移しました



皆、大役をやり遂げ笑顔で記念撮影

“宇宙につながる火”をパラリンピックへ

角田市での採火式は、仙台市のインターネットテレビ局ariTV（アリティーヴィー）の同時中継の下行われました。同市は車いすバスケットボール女子日本代表の活動拠点の一つとして協力する縁で、コーチやキャプテンからの抱負コメントが映像で流れ、会場は応援ムードに包まれました。かくだの火は、JAXA角田宇宙センターでH3ロケットエンジンの研究開発を行っている水素ガス

燃焼処理設備から発生させた火から事前採取したものを種火として、黒須貴角田市長、植田修一角田宇宙センター所長、市民代表として宇宙服を身に着けた角田小6年遠藤明優南さんの3名によって聖火皿に移されました。さらに集火式へと運ぶランタンへ火が灯され、会場に掲げられました。

参加者の声



角田市
まちづくり政策課
課長
木村 信幸さん

本市は以前より車いすバスケットボール女子チームの岩佐義明ヘッドコーチや藤井郁美キャプテンが在住している縁で、市民有志が合宿などの際に支援し続けてきました。今回のパラリンピックをきっかけに、活躍が広く周知されることを、そしてバラスポーツに興味を持っていただく機会になることを願っております。



角田小学校6年
遠藤 明優南さん

この宇宙服はイベント用のミニサイズらしいのですが意外と重くてびっくり!でも「本物の宇宙服はもっと重いんだよ」と言われてさらにびっくりしました。私は角田市のミニバスケットボールチームに所属しているので、やはり車いすバスケットボールに興味があります。特に女子チームは角田市と縁があるので、ぜひたくさん勝って欲しいです。

加美町

日 時：2021年8月14日(土)11:00～
会 場：加美町中新田文化会館
参加者：令和3年加美町新成人145名



会場には振り袖姿の新成人も



成人式で式辞を述べる猪股洋文加美町長



新成人256人のうち145名が出席しました



チリ共和国選手がマイギリ式で火起こしを行った様子を上映



ランタンに保存していた種火から櫻井廉さんが採火して猪股伶奈さんの点火棒へ



火は猪股伶奈さんから早坂峻輔さんの点火棒へ移され、最後に聖火用ランタンに点火



大きな拍手の中、採火式は終了しました

チリ共和国のパラリンピック選手から新成人へ、希望の火はその次へ

復興ありがとうホストタウン、共生社会ホストタウンである加美町は、チリ共和国パラリンピックカヌー、陸上競技選手団の事前合宿を受け入れています。この日、新型コロナウイルス感染拡大の影響により延期となっていた「令和3年加美町成人式」が7ヵ月遅れで開催され、新成人256人のうち145人が出席しました。続いて採火式が行われ、初めに直前合宿中のチリ選手団が8月

11日にマイギリ式で火起こしを行った様子がスクリーンに上映され、最後に日本語で「よろしく願います」とメッセージが送られました。そしてこの種火を保存していたランタンがステージに登場。新成人を代表して櫻井廉さんが点火棒で採火し、猪股伶奈さん、早坂峻輔さんの点火棒へ火をつなぎ、最後に聖火用ランタンに点火。会場は大きな拍手で包まれました。

参加者の声



加美町
スポーツ推進室
鎌田 裕充さん

新型コロナウイルス感染症対策で新成人の皆さん、チリ共和国選手の皆さんもいろいろな苦労があったと思います。この火を希望に一歩ずつでも前を向いて、自分の人生を素晴らしいものにしたいと今日改めて感じました。チリ共和国選手の皆さんは自分のベストを尽くせばメダルを獲得できると思いますので、ぜひメダルを獲得していただきたいです。



早坂 峻輔さん(写真左) 猪股 伶奈さん(写真中) 櫻井 廉さん(写真右)

チリ共和国選手が起こしてくれた火を無事に次へつなぐことができました。成人式と一緒にこのような形で採火式に参加でき、とても光栄です。全国のいろいろなところから集められた火が東京へ運ばれるということは日本全体が協力しているということなので、全員で作上げるパラリンピックだと思います。

仙台市

日 時：2021年8月15日(日)17:00～
会 場：社会福祉法人仙萩の杜就労支援事業所まどか 海と煙のレストランびあてらす
参加者：まどか利用者14名



会場の海と煙のレストランびあてらす



藤本章仙台市副市長、鈴木勇治仙台市議会議長(当時)の挨拶を経てスタート



オカリナ縄文会の演奏の中、火起こしが行われました



大型の火起こし器でヒモギリ式による火起こしも



みんなで息を合わせて大きな火起こし器を回します



マイギリ式で懸命に火起こし



みんなで起こした火が松明に灯されます



施設の復興に向けたあゆみを映像で紹介



毛利貴子さんと理事長がランタンへ火を移しました



ランタンは千葉さんと毛利さんの手で集火式へ

大きな復興を遂げた場所から

イベントは藤本章仙台市副市長による挨拶、鈴木勇治仙台市議会議長(当時)からの来賓挨拶を経てスタートしました。オカリナ縄文会のみなさんが優しい音色を奏でる中、施設利用者がそれぞれマイギリ式と、複数人で大綱を引き、大きな火起こし器を回転させるヒモギリ式での火起こしに挑戦しました。仙台市縄文の森広場スタッフの力を借りながら、なんとか火を起こすことに

成功しました。その後、仙萩の杜理事長である佐藤さんから、東日本大震災の津波で大きな被害を受けたという同施設が、さまざまな協力と努力の下復興を遂げたあゆみが映像とともに紹介されました。最後は施設利用者代表である毛利さんと地域住民代表である袋原東町内会長の千葉さんが、ランタンに移した種火を手にし会場を後にしました。

参加者の声



仙萩の杜理事長
佐藤 耀代さん

採火式会場決定の報せを受け大変驚きましたが、周囲の協力を得て、立派なイベントにすることができ感謝しております。当施設はかつて津波の被害を受けましたが、皆の復興へ至る努力を知っていただく機会に恵まれたことも幸いでした。このパラリンピックをきっかけに、障がいを持つ人への理解がより深まることを期待しております。



就労支援事業所
まどか
利用者
毛利 貴子さん

火起こしはすごく大変で、頑張っているうちにとても汗をかきました。でも最終的にちゃんと火を起こすことができたのでよかったです。スポーツには以前から興味があり、自分でもよくボーリングをしています。パラリンピックでも興味深いスポーツがたくさん行われるので、テレビで放映があったらぜひ見て、応援したいと思っています。

石巻市

日 時：2021年8月15日(日)10:00～
会 場：セイホクパーク石巻(石巻市総合運動公園)
参加者：石巻市市民公益活動団体「一步を楽しむ石巻」代表 若山崇さん
若山拓真さん、盲導犬 トラヴィス、「がんばろう!石巻の会」黒澤健一さん



種火移しは「がんばろう石巻」看板前で



震災翌年から灯され続ける「灯火」



慎重に、種火をランタンに移していく



無事ランタンに移された種火は採火式へ



会場のセイホクパーク石巻



齋藤正美石巻市長による開会の挨拶



採火式の点火セレモニーを行う若山さんご一家



種火をトーチに移し、オリンピックのように点灯!



炬火台の火を再びランタンに移して、セレモニーは終了しました

復興への想いを込めた「灯火」を採火に

石巻市の採火式は、種火移しから始まりました。種火となったのは、石巻南浜津波復興祈念公園内献花台の「灯火」。これは、石巻近郊の被災地に残された震災家屋の木材を燃料として震災翌年から灯し続けているもの。「灯火」を守り続けている黒澤健一さんによりランタンに種火が移され、採火式へと運ばれました。

採火式は、セイホクパーク石巻内の炬火台が設けられている場

所で開催。開会の挨拶では、齋藤正美石巻市長が共生社会への理解と実現に向けた想いを表明しました。

セレモニーでは、視覚障がいを持つ若山崇さんと盲導犬トラヴィス、ご子息の拓真さんが種火をトーチに移し炬火台に点灯。さながら本物の聖火のように燃え上がる炎をランタンへ移し、笑顔でセレモニーは終了しました。

参加者の声



石巻市
市民公益活動団体
「一步を楽しむ石巻」
代表 若山崇さん

震災後灯され続けていた火が東京の大きな火になることは、石巻からの大きな発信。パラリンピックの盛り上がりには繋がればと思います。そして様々なパラリンピック競技を見て、障がい者が距離を置く存在ではないことを知ってもらいたい。トラヴィスと歩く自分が当たり前になるような社会になればと思っています。



石巻市
復興政策部
東京オリンピック・
パラリンピック推進室
室長
石川 儀幸さん

コロナ禍において、元々のコンセプトである「復興五輪」の色はやや薄まってしまったように感じられますが、石巻市ではやはり「復興」への想いを採火式で伝えようと、「がんばろう石巻」の灯火を種火として用いて行いました。この火が精一杯プレーするパラリンピック選手の皆様の応援になればと思います。

東松島市

日 時：2021年8月15日(水)10:00～
会 場：東松島市奥松島縄文村歴史資料館
参加者：東松島市内の小中学校の児童・生徒5名とその保護者
東松島市ジュニア・リーダー7名



渥美巖東松島市長より開会の挨拶



縄文村のスタッフが、お手本を見せます



スタッフ指導のもと、全員無事火を起こすことができました



急に火が大きくなり、驚くシーンも



起こした火は東松島市で出土した土器のレプリカに集めました



パラリンピックに向かう聖火をみんなで採火しました



縄文式土器の火をランタンに移します



ランタンの火を全員でリレー



ランタンを手に、全員で記念撮影

SDGs未来都市として、盛り上げの一端を担う

採火イベントは、東松島市奥松島縄文村歴史資料館の玄関前ホールで行われました。雨予報でしたが、イベント中は太陽がのぞき、明るい雰囲気の中で採火式が行われました。まず、渥美巖東松島市長が挨拶した後、資料館のスタッフからマイギリ式火起こしの説明がありました。火起こし器で火種をつくり、麻紐に移しそっと息を吹きかけます。大きな火になった時には、子どもたちから歓声

が上がりました。その後、4つのグループに分かれ、火起こしを行いました。火起こし器の紐が絡まってしまうグループがあったり、火種が大きくなりすぎるグループがあったりしましたが、それぞれ工夫しながら火を大きくし、縄文式土器に火を移しました。その後、土器からランタンに火を入れ、全員で輪になって聖火をリレー。笑い声が響く中でイベントは終了しました。

参加者の声



渥美 巖
東松島市長

障がいを持つ方もそうでない方も、一緒に火起こしを体験できたのは、とてもいいことだったと感じています。東松島市は、さまざまな取り組みを評価され、国からSDGs未来都市に選定されています。「誰一人取り残さない」という理念からも、パラリンピックの盛り上げに一役買ったのは、とてもうれしく思います。



赤井南小学校 6年
西條 綾人さん
とお母さま

火がついた時は驚きましたが、参加できて、とてもおもしろかったです。オリンピックやパラリンピックは以前から大好き。一生に一度あるかないかの機会なので、こういうかたちでパラリンピックに参加できてよかったです。新型コロナウイルス感染症の関係でなかなか外出できないなか、いい夏の思い出になりました。

大崎市

日 時 : 2021年8月15日(日)10:00～
会 場 : 大崎市鹿島台瑞・華・翠交流施設(鹿島台中央野球場)
参加者 : 大崎市立鹿島台小学校児童7名とその保護者



会場となった「瑞・華・翠交流施設」



開会のあいさつを述べる伊藤康志大崎市長



真剣な表情でレクチャーを受ける子どもたち



スタッフのアドバイスを受けながら火起こしに挑戦。みんななかなか上手です



伊藤市長がランタンに納火。参加者からは大きな拍手が起きました



子どもたちが参加したボッチャ体験会。互いに譲らず接戦となり、大きな盛り上がりを見せました



採火式終了後、子どもたちは「楽しかった」「いい経験ができた」と1日の思い出を振り返りました

灯火に、復興・平和・希望の願いを込めて

会場となったのは大崎市鹿島台地域。ここは、2019年10月の台風19号で浸水被害を受けた場所。採火式の冒頭であいさつを述べた伊藤康志大崎市長は今年が東日本大震災から10年目の節目であることにも触れ、「被災地から、復興・平和・希望という思いを届けたい」と語りました。その後、レクチャーを受けた子どもたちは4つのグループに分かれてマイグリティの火起こしを実

施。初めての作業に苦戦しながらも子どもたちは楽しそうに工程を重ね、次々と火起こしに成功。最後は、伊藤市長がランタンへの納火を行いました。式終了後にはボッチャの体験会も行なわれ、白熱した試合を展開する子どもたちの姿に保護者や関係者から大きな歓声が上がりました。

参加者の声



大崎市
生涯学習課
千葉 隆弘さん

台風19号で被災した鹿島台地域で採火式を開催できたこと、そして参加した子どもたちが一生懸命火起こしに取り組んでくれたことを、非常にうれしく感じています。大崎市では昨年から障がい者スポーツの推進に取り組んできました。子どもたちにとって、この日が障がい者との共生について考えるきっかけになったらうれしいです。



鹿島台小学校 4年
中野 翔太くん
お母さま

「自分の起こした火が東京に行くんだ」と、この日を楽しみにしてきました。学校の授業で経験したボッチャも、みんなでプレイできて楽しかったです。(翔太くん)
子どもたちが互いに協力しながら火起こしをする様子に感動しました。ボッチャも実際に見てみると楽しいですね。貴重な1日になりました。(お母さま)

亘理町

日 時 : 2021年8月15日(日)18:10～
会 場 : 宮城県漁業協同組合仙南支所(亘理) 魚市場荷捌き場
参加者 : 法要の参列者 約50名



会場となった魚市場荷捌き場



法要会場に隣接する採火式会場



厳かな法要が執り行われました



山田周伸亘理町長が火をランタンに移します



法要参列者が採火を見守りました



法要の火がランタンに移されました



会場脇で輝いていた「光のメッセージ」



町民のメッセージを乗せた灯籠が海に流されました



約15分間にわたり追悼花火が上がりました

平和の祭典に寄せる鎮魂と感謝のともしび

亘理町では、夏の催し「わたり夏の夕べ」の中で採火式が行われました。会場となったのは、先祖の供養や東日本大震災の犠牲者を弔う法要会場の隣。鎮魂や世界平和への祈り、そして震災復興支援をしてくれた世界中の人々に感謝を伝えるために、採火は法要で灯されたろうそくの火を使用しました。

町内荒浜地区に門を構える當行寺(とうぎょうじ)住職による法要

を終えた後、祭壇のろうそくは採火式の会場へ移動。ろうそくの火は、山田周伸亘理町長の手によって無事ランタンに移されました。

採火の後は、会場脇の荒浜漁港で灯籠流しが行われ、訪れた町民が海にたゆたう灯籠を眺めさまざまな思いを馳せていました。また催しのクライマックスには鳥の海公園から追悼の花火が上がリ、夏の夜空を美しく彩っていました。

参加者の声



山田 周伸
亘理町長

今回、法要の火をパラリンピック聖火の一部にいただくことで、皆様に鎮魂と復興への感謝を届ける機会ができて幸いに思います。震災から10年が経ち、多くのご支援によって町内のハード事業は完了を迎えました。今後は、大会が象徴する「多様性と調和」に通じる共生社会づくりに努めていきたいと考えています。



東京2020 パラリンピック聖火リレー 宮城県聖火フェスティバル

集火式

県内各9市町村で採火された種火を「宮城県の火」として一つにまとめる「集火式」が8月16日に仙台市内で行われました。

集火された火は、その後、日本各地で採火された火とともに8月20日に東京で行われた集火式で一つになり、8月24日の開会式で聖火台に点火されました。

開催日時：2021年8月16日(月)
18:00～

開催場所：仙台国際センター 展示棟1

主催 宮城県
協力 国立大学法人東北大学

採火実施9市町(仙台市、石巻市、気仙沼市、角田市、岩沼市、東松島市、大崎市、亶理町、加美町)
聖火皿製作機関(東松島市奥松島縄文村歴史資料館、仙台市縄文の森広場、宮城県立西多賀支援学校)
バイオガス出前講座実施機関(仙台市立上愛子小学校、障害者就労継続支援B型事業所ポッケの森、宮城県志津川高等学校、加美町立宮崎小学校、角田市立北郷小学校)
関係機関(宮城県障害者スポーツ協会、仙台市障害者スポーツ協会、宮城県保健福祉部障害福祉課)

式次第

- 17:00 ● 開場／受付
- 18:00 ● 開式
- 18:02 ● 主催者代表挨拶
- 18:07 ● 「宮城県9市町の火」入場
- 18:12 ● 「宮城県9市町の火」集火
- 18:15 ● 「宮城県の火」集火
- 18:17 ● パラリンピックトーチ点火
- 18:19 ● 宮城県集火代表者挨拶
- 18:20 ● 宮城県聖火ランナー挨拶
- 18:22 ● フォトセッション
- 18:25 ● 「宮城県の火」納火
- 18:27 ● 閉式
- 18:28 ● 終了

登壇者

主催者挨拶・聖火納火	宮城県企画部オリンピック・パラリンピック大会推進局長 大山明美		
採火9市町(代表者)	仙台市	社会福祉法人仙萩の杜就労支援事業所まどか	毛利 貴子 さん
	石巻市	宮城MAX	五十嵐 雄也 さん
	気仙沼市	気仙沼市生涯学習課	内海 早紀 さん
	角田市	角田市まちづくり政策課長	木村 信幸 さん
	岩沼市	岩沼市立玉浦小学校	吉岡 詩織さん
		岩沼市立玉浦小学校	今 充希さん
	東松島市	小山 修	東松島市副市長
	大崎市	大崎市生涯学習課長	高橋 和広 さん
	亶理町	亶理町生涯学習課	庄司 洋 さん
	加美町	加美町スポーツ推進室長	浅野 善彦 さん
聖火皿大点火	東松島市ジュニア・リーダーのみなさん (高橋 大雅さん、千葉 みるさん、浅野 七海さん、相澤 終希さん、佐藤 育美さん)		
パルトーチ点火・挨拶	聖火リレー 宮城県代表者 庄子 健 さん		
ランナー挨拶	聖火ランナー(宮城県選出枠) 木村 はるみ さん		

県内各9市町で採火された 希望の火が仙台で一つに

県内各9市町で思い思いの方法で採火された種火は、8月16日、仙台国際センター展示棟で行われた「集火式」で「宮城県の火」として一つになりました。

式は新型コロナウイルス感染者の急増に伴い8月12日に発令された宮城県・仙台市の独自緊急事態宣言を受け、当初予定していた一般公開を中止し、参加者を50名余に限定した形で開催。冒頭に宮城県の大山オリンピック・パラリンピック大会推進局長から「この集火式で一つにまとめられた火が、誰もが共に認め合い、支え合いながら生きていける共生社会の実現に向けた希望の光となることを願っている」という挨拶の後、地域の様々な思いが込められた各9市町の種火が順番に入場。スクリーンにはそれぞれの採火の様子が写真で映し出されました。

ランタンに灯された9つの種火は、まず各市町の代表者の手で前に置かれた5つの小型の聖火皿に集火。この土器の聖火皿も、炎の燃料となるバイオガスも、宮城県独自の取り組みとして県内各地で行われた「聖火皿製作イベント」や「バイオガス出前講座」に参加してくれた子どもたちなど、多くの人たちが関わって作られたものです。

9つの種火から5つの聖火皿に移された火は、次いで東松島市ジュニア・リーダー5人の子どもの手によって、ステージ中央に置かれた縄文式土器の大きな聖火皿に集火。会場からは大きな拍手が巻き起こりました。

一つにまとめられた「宮城県の火」は、続いて聖火リレー宮城県代表者である庄子健さんにより聖火皿からトーチに移され、さらに聖火ランナーの木村はるみさんの手でトーチから大山局長の持つ移送用ランタンに納火。8月20日に開かれた東京の集火式で全国の火と一つになり、8月24日の開会式で国立競技場の聖火台に点火され、東京2020パラリンピックに希望の火を灯し続けました。



聖火リレー宮城県代表者
庄子 健 さん

リオデジャネイロパラリンピック車いすラグビー日本代表(主将)を務め、銅メダルに輝く。現在は障がい者スポーツに関する講演等で講師を務めるなど、障がい者スポーツの普及促進に尽力。

現在このような状況下ではありますが、またこうしてパラリンピックに関わることができて大変うれしく思います。本日9市町それぞれの思いがこもった火を、こうしてトーチに灯すことができて大変光栄に思っています。今回のパラリンピックが、障がい者スポーツの普及促進につながることを願っています。



採火式

集火式

バイオガス出前講座

聖火皿製作イベント



聖火ランナー(宮城県選出枠)
木村 はるみ さん

パラアスリートとして知的障がいクラスの卓球競技に参加。2000年シドニーパラリンピック出場。2017FIDジャパンチャンピオンシップ卓球大会ダブルス優勝、2018年アジアパラ競技大会出場など、数々の国際大会で活躍。

今日はトーチを見て感動しました。東京ではこのトーチをもって皆さまの思いをつないで走りたいと思います。

会場風景



会場となった仙台国際センター展示棟



司会者との入念な打ち合わせ



PAスタッフもスタンバイ



ステージ上で本番の動きをチェック



リハーサル風景



席もソーシャルディスタンスをキープ



多くのメディアが取材に詰めかけました



バイオガスの燃焼状態を確認



集火を待つ採火された種火



新型コロナウイルス感染症対策で検温



スタッフが入場者の手指を消毒



準備万端。開式を待つばかりのステージ



集火の大役を務める東松島市ジュニア・リーダーのみなさん



本番の前にミーティング



出席者控室の様子



挨拶原稿を確認する聖火ランナーの木村はるみさん



本番の前に緊張が高まります

宮城県9市町の火 入場



大山明美オリパラ大会推進局長の主催者挨拶



仙台市の種火をランタンで運ぶのは毛利貴子さん



石巻市は車イスバスケットボールクラブチーム宮城MAXの五十嵐雄也さん



9市町の採火が登壇するのに合わせて各地の採火式の様子がスクリーンに映し出されます



気仙沼市生涯学習課の内海早紀さん



角田市まちづくり政策課長の木村信幸さん



岩沼市は玉浦小の吉岡詩織さんと今亮希さん



東松島市は小山修副市長



大崎市生涯学習課長の高橋和広さん



亶理町生涯学習課の庄司洋さん



加美町スポーツ推進室長の浅野善彦さん



バイオガス出前講座を指導した東北大の多田千佳准教授



県内各9市町で様々な方法で採火された種火がステージ上に揃いました

宮城県9市町の火 集火



各市町の火を聖火皿に移す点火棒が手渡されます



まず各市町で採火された9つの火が5つの小型の聖火皿にまとめられます



集火を担当する東松島市ジュニア・リーダーの5名のみなさんが登壇



5つの聖火皿から点火棒でメインの聖火皿に点火する火を移します



メインの聖火皿を取り囲みいよいよ集火です



勢いよく燃え盛る聖火皿の炎



9市町で採火された様々な思いが込められた火が東京2020パラリンピック聖火「宮城県の火」としてここに一つになりました

パラリンピックトーチ 点火



聖火リレー宮城県代表者を務める庄子健さんがステージへ



庄子健さんの手で聖火皿からパラリンピックトーチへ点火



勢いよく燃え盛るトーチの炎



庄子健さんから聖火リレー宮城県代表者の挨拶



聖火ランナーを務める木村はるみさんの挨拶



会場は大きな拍手で包まれます

「東京2020パラリンピック聖火 宮城県の火」納火



木村はるみさんの手でトーチから納火のための火が移されます



納火用のランタンに火が移されます



東京に運ぶ火を納める納火用のランタン



納火されたランタンを掲げる大山局長



式の最後に登壇者全員がステージへ



式典は無事終了しました



出立を待つ「宮城県の火」

バイオガス 出前講座



「宮城県の火」を灯す際の燃料として使用されたバイオガス。そのバイオガスを準備するにあたり、東北大学大学院農学研究科の多田千佳准教授の指導で計6回の「バイオガス出前講座」が行われました。これは「牛の胃」の中の環境を実験で再現しつつ、可燃性のメタンガスを作るというもの。講座の前半では給食の残りなどに水を混ぜてミキサーにかけ、そ

こに多田准教授が持参した嫌気性の微生物を混ぜて「ガスの素」を作りました。これらを39度に保った環境で3週間ほど寝かせると、メタンガスが発生します。講座後半は多田准教授が事前に研究所で作ってきたガスに火をつけて、湯を沸かし、その燃料としての力を体感しました。



東北大学
大学院農学研究科
多田 千佳 准教授

この「出前講座」によるバイオガス作りは2012年より行っている試みです。実は日本中のバイオマス（再生可能かつ生物由来の有機性資源で、化石資源を除いたもの）で、原子力発電所1台分の電気を作ることができるんですよ。生ゴミから作ったバイオガスのCO₂は、もともと生物の成長過程で光合成により大気中から吸収したもので、つまりCO₂を大気中で新たに増加させることのない「カーボンニュートラル」な資源といわれています。同時にガスの材料にすることで生ゴミの量を減らせますし、

さらにガスの材料となった生ゴミはそのまま液肥として活用することもできますから、生ゴミから作った肥料で野菜を育て、それを食べて出たゴミを……というように、自分サイズの資源循環ができることがメリット。現在このバイオガスの利活用は自治体などBtoBベースに限られています。これをゆくゆくは市井の生活へと草の根的に広げていきたい。そして子どもたちにはこれらの体験を通して「地球の営みに自分たちも加わって生活している」という実感を得る機会になればと思っています。

仙台市

日時：2021年5月10日(月)10:45～
会場：仙台市立上愛子小学校 1階理科室
参加者：5年1組の児童21名

ゴミから燃料を作る有益性を体感

よく晴れ渡った初夏の日、「出前講座」の第1回目が行われました。多田准教授から「牛のげっぷ」がメタンガスであること、今日の実験が「牛の胃の中」を再現するものであることを説明されると、児童たちはみんなワクワクした表情に。途中慣れないミキサーや

ガスの扱いに苦しみながらも無事ガスの素を作ることができました。最後に多田准教授から「自分の作ったガスで何がしてみたい？」との問いに、児童たちから「カップラーメンを作る」「チャーシューを焼いてみたい」など、さまざまなアイデアが出されました。

参加者の声



菅野 拓生校長

子どもたちがSDGsを理解する、ありがたいきっかけを与えていただきました。本校は1学年1クラスの小規模校ですが、こうした体験授業においてこの人数は「全員が参加できる」というメリットになります。「一人ひとりができること」への気づきをぜひ子どもたちに得てもらいたいですね。



佐倉田 智之先生

「身近な生ゴミが燃料になる」ということが、子どもたちにとって新鮮な発見だったようです。子どもたちはこうした化学実験がみんな大好きなので、コロナ禍が落ち着いたら、外部講師によるこうした授業をもっと増やして、生きた体験をする機会をどんどんさせていきたいですね。

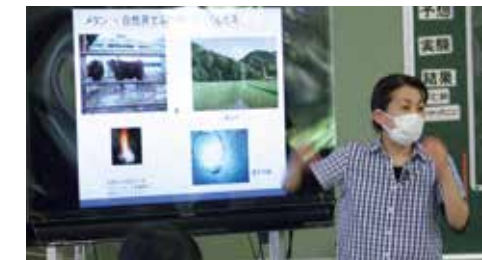


あかり 丹野 朱莉さん

空気が嫌いな微生物を、できるだけ空気にふれさせないようにして生ゴミと混ぜるところが一番難しかったです。これがパラリンピックの聖火になるのはすごいと思う。あと、今までゴミ＝汚い、邪魔者だと思っていたけれど、実は燃料の素になる大切な資源だと思うようになりました。



上愛子小学校



初めに多田千佳准教授から「バイオガス」についての説明がありました



みんな真剣に聞いています



「牛の胃の中はどうなっている？」班ごとに意見をまとめます



給食の残りに水を加えミキサーにかけます



マルチビタミンなどを溶かした溶解液を生ゴミと混ぜます



「ガスの素」を作った後は、研究室であらかじめ作ったガスで水を温めます



最後はみんなで記念撮影を行いました

仙台市

日 時：2021年5月15日(土)10:30～
会 場：障害者就労継続支援B型事業所ポッケの森「森のレストラン」
参加者：施設利用者19名

実験をすすめるうちに笑顔が

この日の出前講座は障害者就労継続支援B型事業所ポッケの森「森のレストラン」で行われました。最初はどの参加者もやや緊張気味でしたが、工程が進む中で徐々に笑顔が見られるようになってきました。「牛の胃がどうなっているか」という質問に対し

「牛は反芻胃を持っている」と、詳しい説明が出るシーンも。すべての実験を終えた後には「ガスの素となった液体を液肥として活用したい」という声上がるなど、皆興味深く参加した様子がうかがえました。

参加者の声



副管理者
星野 幸さん

当施設では利用者によるお弁当や惣菜の製造・販売を行っています。その過程で出る「生ゴミ」は、私たちの活動とは切っても切れないもの。今後は「処分すべきもの」としてでなく、有効活用できる「資源」として向き合うことができそうです。視野を広げる良い機会を与えていただきました。



職員
鈴木 宣明さん

私個人としても「生ゴミから燃料を作ることができる」という事実を知らなかったので、非常にためになりました。参加した利用者たちはみんな楽しそうに協力しあっていました、また火を扱う実験では集中してのぞんでいる様子が伺えました。実りの大きい体験となったと思います。



施設利用者
佐々木 由佳さん

実験自体が学生時代ぶり、非常に楽しく参加できました。作ったガスで料理を作ったり、お風呂を沸かしたり、飲み物を温めたりするのに使えると聞いてびっくり。単に捨てるものが減るだけでなく、生活の中で有効活用できるので、良いことづくめであると感じました。



ポッケの森



まずは多田千佳准教授から今日の実験について説明がありました



牛の胃の中はどうなっているんだろう？意見が交わされます



班でまとめた意見をそれぞれ発表しました



厨房の生ゴミを使ってガスの素作りに入ります



こぼさないよう慎重に



微生物が活性化しようpHを調整します



ガスの素にビタミンの溶けた溶解液を加えます



多田准教授が持参したガスを使って湯を沸かす実験も行いました



最後に記念撮影を行いました

南三陸町

日 時：2021年5月19日(水)10:50～、13:50～
会 場：宮城県志津川高等学校 生物室
参加者：(午前)3年2組28名、(午後)3年1組+3組42名

「分解」という微生物の仕事を学ぶ

この日は午前・午後の2部制で、3年生の3クラス全員が受講。対象が高校3年生ということで、レクチャー内容も比較的専門的なものとなりました。例えば牛の胃の内容物を分解する微生物「ルーメン原虫」の大きさやその役割、また食べた草がどのような

過程を経てメタンガスへ分解されるか、また水を55℃に熱するには何リットルのメタンガスが必要か、など。生徒たちも一つひとつ興味深げにうなずきつつ、しっかりとメモをとっていました。

参加者の声



小田島 修先生

これまでも理科の授業でリサイクル事業を手掛ける企業を招き、生ゴミのリサイクルを体験するなど、バイオの領域には力を入れてきました。今日の体験を通じ、環境問題に関心を持つと同時に、パラリンピックをより身近に感じてもらえれば、と思っています。



阿部 華さん

今日の授業を通じて「生ゴミから燃料ができる」ということを初めて知りました。最後の実験で本当に火がついたことにも驚いたし、実際の生活に役立てることができれば素晴らしいと思います。この火がパラリンピックの聖火となる日を、楽しみにしています。



柴田 雛音さん

「燃料を自分たちの手で」ということにも驚いたけれど、生ゴミという身近なものを材料とすることに一番びっくりしました。エコという観点だけでなく、災害などの非常時にも役立つ知識だと思います。今日の授業を機会にパラリンピックにも意識を向けたいです。



志津川高等学校



今日は高校生が対象ということで、やや専門的な部分もレクチャーされました



班ごとに「牛の胃の中」を想像し、意見をまとめます



ミキサーに今日の給食の残りを投入しスイッチON



午前中は5班で5つの「ガスの素」を作りました



講座後半ではガスをつかって湯を沸かす実験をします



記念撮影を行いました

加美町

日 時：2021年6月2日(水)10:40～
会 場：加美町立宮崎小学校 講堂
参加者：6年1組の児童16名

身近な「牛」の胃を再現する実験に湧く

加美町では酪農を営んでいる家も多く、児童たちにとって牛は身近な存在です。今日作るメタンガスが、その牛のげっぷと同じものであることを説明されると、みな一気に親近感が湧いた様子でした。ガスで水を温める実験では、外気温が高かったことも

あり、どの班もすぐに目標の55℃を達成。そこで目標温度を65℃に変更したところ、一部の班は70℃にまで達していました。その熱量の大きさにびっくりしつつ、湯の熱を手感じていた様子でした。

参加者の声



池田 尚人校長

私はもともと理科教諭であったこともあり、児童たちに「なぜ」「どうして」を持つ機会をできるだけ作るようにしています。児童たちには宮崎町の自然に恵まれた環境の中で、今日のように自分の手で触れ、目で確認する経験を通じ心を育てて欲しいと思っています。



宮崎 巧実さん

生ゴミをミキサーにかけた後、pHの調整をするところが少し難しかったです。でもこれがパラリンピックの聖火になると思うと「すごいことをしている」という実感がわいてきます。隣の家で牛を飼っているのですが、今日から牛を見る目が変わると思いました。



佐々木 寛子先生

コロナでなかなか出張授業の機会を持てずにいた中、非常に有意義な経験をさせていただき感謝しています。加美町はチリ共和国のホストタウンとして、パラリンピック選手団の事前合宿の受け入れを行っていることもあり、児童たちにパラリンピック競技をより身近に感じてもらえればと思っています。



今野 優那さん

生ゴミに微生物を加えるときに「できるだけ空気に触れさせないように」と言われて、ちょっと苦戦しました。でもそのガスですぐお湯が沸いたときは感激しました。パラリンピックはこれまであまり知識がなかったけど、TVで放映されたらぜひ見ようと思います。



宮崎小学校



今日の講座は広い講堂で行われました



牛の胃で何が行われているのか、みんな一生懸命考えます



ガスの素作りは、集中して液をこぼさないように



4班で4つの「ガスの素」ができました



講座後半はガスを使って湯を沸かします



紙コップを通してコップを通じ沸いた湯の温かさを体感



最後に記念撮影を行いました

角田市

日 時：2021年6月4日(金)10:35～
会 場：角田市立北郷小学校 理科教室
参加者：6年1組の児童24名

バイオガスを活用する未来をイメージして

雨模様の中行われたこの日の出前講座でしたが、参加した児童たちは元気いっぱい。質問や意見も活発にかわされ、授業は大いに盛り上がりました。多田准教授が最初にガスへ火をつけた瞬間には、児童たちから拍手喝采が湧いたほど!「家でバイオガスが

作れたら何をする?」という質問には、ココアを淹れる、お風呂を沸かす、カップラーメンを作るなどたくさんの意見が出て、日常生活でバイオガスを活用する未来を各自イメージしていた様子でした。

参加者の声



山口 凌先生

6年生はこれから授業で「環境」について学ぶ予定です。このタイミングでの出前講座が良い導入になったと、確かな手応えを感じました。環境問題は自分たちの生活と密接に関わるものであることを、身を持って実感してもらい、良い機会となったのではないかと思います。



佐藤 もも音さん

牛のげっぷや、田んぼのげっぷ(水田からのガス発生)が燃料になる、と聞いてびっくり。でも今日の授業で、それが微生物の働きによるものだと理解できました。この知識をしっかりと身につけ、災害などの非常時にも応用できると良いなと思いました。



阿部 正彬さん

「生ゴミからパラリンピック聖火の素を作る」ということに一番興味を惹かれました。パラリンピックは2018年の平昌のときにTVで興味を持ったので、今年日本で開催するのがとても楽しみ。TVを通じ、いろいろな競技を応援したいと思っています。



「牛のげっぷ」がバイオガスになると聞き興味津々



牛の胃の中の環境はどうなっているか、みんなの意見をまとめます



フルーツの皮など給食の残りをミキサーにかけます



ガスを作る微生物の栄養になる溶解液を混ぜます



「自分が作ったガスで何を?」活発な意見が出ました



後半はバイオガスで水を沸かす実験です



最後はみんなで記念撮影を行いました

東松島市

日 時 : 2021年6月14日(月)13:30~
会 場 : 東松島市奥松島縄文村歴史資料館
参加者 : 東松島市ジュニア・リーダー8名

生ゴミが資源になるという気づきを得て

地域づくりに参画する小中学生ボランティア「ジュニア・リーダー」たち8名が、パイオガス作りに参加しました。牛の胃の中はどうなっている?の質問に「温かい」という意見のほか「伸びたり縮んだりする」「いろんな微生物がいる」など、鋭い意見もたくさん

出され、ブレインストーミングは大いに盛り上がります。最後は「生ゴミ200gでスープ3人分を温められる」というガスの意外な実力を知らされ、驚きながら感心していた様子でした。

参加者の声



鳴瀬未来中学校1年
相澤 柊希さん

いつもは捨ててしまっている生ゴミが資源として再利用できることにびっくり。これをきっかけに環境問題に対する取り組み方が変わりそうです。パラリンピックという世界から選ばれた人たちが集まる大きなイベントに自分もさやかながら関わることができて光栄に感じています。



矢本第一中学校3年
千葉 みるさん

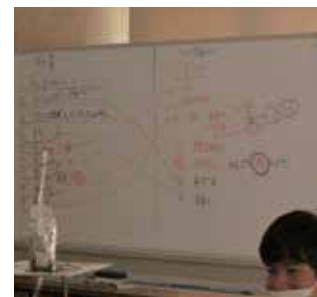
今日は生ゴミが燃料になると知ることができてよかったです。以前パラリンピック競技のボッチャを体験したことがあり、そのときは障がいのあるなしに関わらずみんなで盛り上げられることに驚きました。なので、今回のパラリンピックでもぜひボッチャの選手を応援したいと思います。



東松島市奥松島縄文村歴史資料館



まずは「牛の胃の中はどうなっているか?」を考えます



どの班からも鋭い意見がたくさん集まりました



生ゴミをミキサーにかけ水を加えます



空気に触れないよう嫌気性の微生物をプラスして



ガスの素ができました



ガスが一度に出ないようそっと押しながら火をつけます



「まだガスを出し切っていないかな?」



最後是多田准教授からパイオガスの可能性についてお話がありました

聖火皿製作イベント



採火式

集火式

パイオガス出前講座

聖火皿製作イベント

「宮城県パラリンピック聖火フェスティバル」の聖火皿には、地域の子どもたちや障がいを持つ方が手掛けた、縄文式土器が使われることになりました。先頃、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産一覧に記載されたこともあり、縄文式土器は地域の連帯感を醸成するシンボルとしてふさわしいものです。「東松島市

奥松島縄文村歴史資料館」では市内の里浜貝塚から出土した約5000年前の縄文式土器を複製し、その表面に細いひもを転がしたり、ひも状にした粘土を付けることで模様づけを。また「宮城県立西多賀支援学校」では山田上ノ台遺跡から出土した縄文式土器の複製に、ベンガラで絵付けをそれぞれ行いました。



元東北歴史博物館上席主任研究員
菊地 逸夫さん

もともと縄文式土器を研究していたこともあり、今回は土器づくりの指導に声をかけていただきました。土器は里浜から出土された土器で最も力強く、火を感じさせるデザインのことを参考にして複製しています。子どもたちには「土器づくり」に参加した、というより「パラリンピックをお手伝いした」という意識を持ってもらえればと思っています。



仙台市縄文の森広場主事
佐々木 敏明さん

普段は縄文式土器に色を塗ったりすることはしませんが、みんなで楽しんで参加してもらう手法として、かつてお祭りに使用するお面の彩色に使用されたベンガラによる絵付けを思いつきました。ベンガラはその濃度で赤茶から濃茶まで色にバリエーションが生まれ、非常に表情豊かな彩色が行えます。ベースの土器製作は当施設の元所長である太田昭夫さんに依頼しました。

東松島市

日 時 : 2021年5月16日(日)13:30～
会 場 : 東松島市奥松島縄文村歴史資料館
参加者 : ジュニア・リーダー14名



東松島市奥松島縄文村歴史資料館



奥松島と縄文式土器との結びつきや今回の工程が説明されました



最初は粘土の表面に縄目をつける練習から



土器に貼り付ける粘土の紐を作る練習も行いました



里浜地区から出土された縄文式土器の複製に粘土紐で文様をつけます



練習が終わったら本番へ



縄目をつけた粘土紐でゆっくり、しっかりと文様づけを行います



最後に菊地先生から今後野焼きを行って完成する旨の説明がありました



記念撮影を行いました

みんなで協力して 一つの聖火皿に

地域づくりに参画する、小中学生ボランティア「ジュニア・リーダー」たちが、聖火皿として使用する縄文式土器の模様づけに参加しました。模様は土器の表面に縄目をつけたり、へらで刻んだり、紐状の粘土をつけたりすることで生まれます。最初に手元の縄と粘土で練習をした後、土器の前に並んで一人ひとり文様をつけていきました。土器はこの後「野焼き」という焼成の工程を経て完成する予定。短い時間の中で参加者は達成感を感じていた様子でした。



東松島市奥松島縄文村歴史資料館館長 菅原 弘樹さん

里浜貝塚は日本で一番大きな貝塚として知られ、良質な縄文式土器が出土することで知られています。そうした地域の宝を子どもたちに伝える、素晴らしい機会が得られたこと、また宮城県を代表するイベントでお披露目できることをありがたく感じています。



鳴瀬未来中学校2年 菅澤 例瑳さん

縄文式土器の模様づけは初めての体験でしたが、意外に力があるなど感じました。また粘土で紐をつくるのに、同じ太さで均一に伸ばすのがなかなかうまくいかず苦しみました。パラリンピックは自国で開催されるのはなかなかない機会なので、その一端に関わることができてうれしいです。



鳴瀬未来中学校2年 後藤 悠喜さん

縄文式土器の粘土は意外に固く、こねるのに苦労しました。模様を入れるときは、全体のバランスを壊さないよう、どこにどんな模様を入れるか考えながら入れました。完成品を見ると、みんなで作り上げたという達成感が感じられます。これが集火式で使用されることが誇らしいです。

仙台市

日 時 : 2021年5月26日(水)10:00～
会 場 : 宮城県立西多賀支援学校
プレイホール・プレイルーム・Bコース作業室・やまびこ教室
参加者 : 小学部の児童7名、中学部の生徒2名、高等部の生徒7名



先生方にサポートをしてもらいながらベンガラで絵付けをしています



山田上ノ台遺跡から出土した縄文式土器の複製に絵付けしました



パラリンピック採火式の紹介動画を流しながら絵付けする教室も

“最古の顔料”を 使って自由に絵付け

この日は仙台市縄文の森広場のみなさんを講師に招き、山田上ノ台遺跡の複製土器への絵付けが行われました。土からとれる酸化鉄を原料としたベンガラという「最古の顔料」を筆につけ、講師や先生のサポートを受けながら、5つの土器へ思い思いに模様を描きます。4つの教室に分かれての作業でしたが、みんな集中しながら手を動かし、楽しく絵付けを実施。最後はみんな達成感を感じていた様子がうかがえました。



小学部主事 鈴木 清美先生

子どもたちはコロナ禍で外部の方と接する機会が少ないため、今日とはどんな表情をするのか楽しみでした。活動中はこちらの想像以上に集中し、色の変化に注目している様子がうかがえ、うれしく思いました。パラリンピックという大きな事業に関わることができ、子どもたちのよい思い出となりました。



中学部担任 佐藤 智幸先生

準備をしっかりと上で、今日の絵付け体験を迎えられてほっとしました。普段から生徒たちは色を染めたり、貼り絵をしたりと、「色」を扱う授業が多いため、今日の絵付け体験も比較的親しみやすかったのではないかと思います。よい機会をいただき、ありがとうございました。



高等部主事 及川 吉文先生

高等部では年に4回から5回ほど外部団体のご協力により、みそづくりやドローンサッカーなどの体験を行っています。しかし「絵付け」は初めての経験だったので、みんな興味深そうに参加していました。障がいの種類に関わらずみんなで楽しめたことが何よりよかったです。

採火式

集火式

バイオガス出前講座

聖火皿製作イベント



資料編

実施体制



活動の記録

2018/12/21	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会(以下、大会組織委員会)より、パラリンピック聖火リレーのコンセプトが発表される。また、開催都市東京都や、競技開催県(静岡県、千葉県、埼玉県)において、聖火リレーを実施し、その他43道府県については、採火等のイベントを実施する方向性である旨が発表される。
2019/3/25	大会組織委員会より、パラリンピック聖火リレーの概要、エンブレム、トーチについて発表される。
2019/5/23	「東京2020パラリンピック聖火リレーに関する連絡会議」を開催 採火等の実施を検討する市町に参集いただき、大会組織委員会から示されたガイドラインや、本県の聖火フェスティバルの実施イメージについて説明
2019/8/25	大会組織委員会より、パラリンピック聖火リレーのユニフォームについて発表される。
2019/8/28	「東京2020パラリンピック聖火リレー宮城県連絡調整会議」設置、第一回目を開催 採火等の実施を検討していた10市町が9市町(仙台市、気仙沼市、角田市、岩沼市、東松島市、大崎市、蔵王町、亶理町、加美町)になり、県・仙台市障害者スポーツ協会、県保健福祉部障害福祉課で構成された会議体を設立。本県の聖火フェスティバルの準備及び運営実施に関する事項等を検討及び情報共有していくことを目的とし、本会議の要領や実施のイメージ等について説明
2019/11/22	大会組織委員会より、パラリンピック聖火リレーの採火・出立実施場所、聖火リレールート概要、聖火ランナー募集概要等が発表される。
2020/2/6	大会組織委員会より、各都道府県の聖火フェスティバルの実施日程・場所等が発表される。
2020/2/7	「第二回東京2020パラリンピック聖火リレー宮城県連絡調整会議」を開催 県内での採火市町が決定。また、県の聖火フェスティバルの実施案を説明し、本県代表者及び本県選出枠聖火ランナーの候補者について決定
2020/3/11	世界保健機関(WHO)新型コロナウイルス感染症パンデミック宣言
2020/3/24	大会組織委員会より、世界的な新型コロナウイルス感染症の影響で、パラリンピック聖火リレーが延期となる旨発表される。
2020/4/16～5/14	全国に新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言※以下「緊急事態宣言」
2020/9/28	大会組織委員会より、延期後のパラリンピック聖火リレーの実施日程等の概要が発表される。
2021/3/18～6/13	宮城県・仙台市独自の「緊急事態宣言」※2021/4/5以降は、「まん延防止等重点措置」に統合
2021/5/7	集火式の運営等及び記録誌制作業務について、業者委託(～令和4年1月)
2021/5/10	仙台市立上愛子小学校にて、「バイオガス出前講座」を開催
2021/5/15	社会福祉法人ばっけコミュニティネットワーク障害者就労継続支援B型事業所「ポッケの森」にて、「バイオガス出前講座」を開催
2021/5/16	東松島市奥松島縄文村歴史資料館にて、「聖火皿製作イベント」を開催
2021/5/19	宮城県志津川高等学校にて、「バイオガス出前講座」を開催
2021/5/26	宮城県立西多賀支援学校にて、「聖火皿製作イベント」を開催
2021/5/28	大会組織委員会より、パラリンピック聖火リレーのリレールート詳細等について発表される。
2021/6/2	加美町立宮崎小学校にて、「バイオガス出前講座」を開催
2021/6/4	角田市立北郷小学校にて、「バイオガス出前講座」を開催
2021/6/14	東松島市奥松島縄文村歴史資料館にて、「バイオガス出前講座」を開催
2021/8/7	岩沼市玉浦西大樹公園にて、8月16日に行う岩沼市の採火式にて採る火の種火を起こすイベントを実施
2021/8/12～9/30	宮城県・仙台市独自の「緊急事態宣言」※2021/8/20以降は、「まん延防止等重点措置」や「緊急事態宣言」に統合
2021/8/12	「気仙沼市市民福祉センターやすらぎ」にて、気仙沼市の採火式を開催
2021/8/14	角田市スペースタワー・コスモハウス宇宙っこテラス広場にて、角田市の採火式を開催 加美町中新田文化会館にて、加美町の採火式を開催
2021/8/15	社会福祉法人仙萩の社就労支援事業所まどか「海と畑のレストランびあてらす」にて、仙台市の採火式を開催 セイホクパーク石巻(石巻市総合運動公園)にて、石巻市の採火式を開催 東松島市奥松島縄文村歴史資料館にて、東松島市の採火式を開催 大崎市鹿島台瑞・華・翠交流施設(鹿島台中央野球場)にて、大崎市の採火式を開催 宮城県漁業協同組合仙南支所(亶理)魚市場荷捌き場にて、亶理町の採火式を開催
2021/8/16	岩沼消防署にて、岩沼市の採火式を開催 仙台国際センターにて、「集火式」を開催

広報媒体

県の広報媒体を使って情報を発信。みやぎ県政だより7・8月号では、東京2020大会に関する宮城県の情報を紹介する中で、「パラリンピック聖火リレー」についても1ページを割いて詳しく紹介しました。また宮城県企画部オリンピック・パラリンピック大会推進課が、編集発行していたオフィシャル広報誌「みやぎ2020通信」でも、「バイオガス出前講座」や「聖火フェスティバル」の情報、また県内でのパラリンピックの事前合宿の様子を詳しく紹介しました。

みやぎ県政だより2021年7・8月号



みやぎ2020通信VOL.7・VOL.14



朝日新聞 2021年8月8日



朝日新聞 2021年8月13日



河北新報 2021年8月14日



河北新報 2021年8月10日

起こした復興の火 聖火リレー・岩沼で採火

東日本大震災の被災者らが暮らす岩沼市玉浦西地区の大樹公園で7日、東京パラリンピックの聖火リレーに使われる種火の採火があった。県内計9市町で採火され、16日に仙台市内である集火式で一つになる。

岩沼市と玉浦地区子ども会育成会が主催し、地域住民や玉浦小5、6年生ら約40人が参加。木の板に棒をこすり合わせる「舞雩式」で火を起こし、「玉浦西復興の火」としてランタンにともした。東京パラリンピックの正式種目の一つ「ボッチャ」の体験会もあった。

参加した玉浦小6年沼田朋樹君(11)は「思ったより火を起こすのが難しかったが、パラリンピックで使われるのはとてもうれしい。日本選手の活躍が楽しみ」と話した。

市は16日午後1時まで岩沼市末広の岩沼消防署で種火を展示した後、仙台市の集火式会場に送る。



火起こしに挑戦する子どもたち

河北新報 2021年8月15日



東京パラへ 願いの採火

「くれると信じている」とあいさつした。黒須賀市長と植田所長、宇宙をテーマに学習活動する「日本宇宙少年団」の代表団、遠藤明徳さん(11)が、角田小6年11が、実験施設の火からトーチで採火台に点火し、黒須市長がさらにランタンへ火を移した。

河北新報 2021年8月17日



希望の集火 共生願う 仙台で9市町代表「縄文土器」で一つに

肉の小中高生が制作した縄文土器を模した種火皿で集約された。燃料の一部には、東北六の協賛で県内の小学校で生ごみをリサイクルしてバイオガスが使われた。2016年リオデジャネイロパラリンピック車いすラグビー銅メダリストの庄さん(41)が、集火された「宮城県の火」をパラリンピックのトーチに点火した。

アイテム



市町採火用ランタン

物品名 ロゴス ブロンズ
ランタンL

数 量 9台

備 考 燃料はパラフィンオイルを使用(最大容量: 1,170ml/9台分)



公式ランタン

物品名 パラリンピック聖火
リレー用ランタン
(大会組織委員会提供)

サイズ H250mm
(持ち手含め330mm) ×
φ90mm

重 量 1.75kg

素 材 真鍮製

備 考 燃料としてパラフィン
オイル使用



パラフィンオイル

物品名 スターパラフィンオイル

分 類 第3石油類

性 状 パラフィン系炭化水素

容 量 1,000ml

持込数量 2本 (2,000ml)

備 考 製品安全シート(MSDS)あり



キャンドル(点火棒)

物品名 キャンドル
(ロングタイプ)

数 量 14本

備 考 ランタン→聖火皿小9
本、聖火皿小→聖火
皿大5本



聖火皿の燃焼で使用するバイオガス

物品名 バイオガス(90%メタンガス、10%程度CO2ガス、
10ppm未満でH2S)

数 量 1,300L(100L×13個)≒約58mol≒1,045g

備 考 アルミニウム

バイオガス保存用アルミニウムバッグ

物品名 アルミニウムバッグ

数 量 13個(内4個は予備 @W1,000mm×L1,000mm)

備 考 ホースを聖火皿底部に空いた穴から通す(電動ポンプにてガスを
送出)。GLサイエンス社製。ラミネートされたフィルムで作られ、外
膜よりナイロン・ポリエチレン・アルミホイル・ポリエチレン・ポリエ
チレンの5層構造。袋に入ったときの圧は大気圧状態

バイオガス製造にご協力いただいた団体※敬称略

- 福島県いわき市 共栄(株)
- 東京都品川区 品川学園
- 東京都品川区 立会小学校
- 東京都品川区 浜川小学校
- 東京 バイオマス出前授業の会
- 東京都小金井市 かかくらぶコスモ
- 南三陸 BIO
- NPO法人スパッと鳴子温泉自然エネルギー
- 宮城県志津川高校エコシステム倶楽部
- 熊本県 山都の未来へつなく実行委員会
山都町立蘇陽南小学校
- 福島県南相馬市 特定非営利団体あさがお
- 福島県南相馬市 一般社団法人えこえね南相馬研究機構
- 東京工業大学 環境・社会理工学部・社会理工学院建築学系 大風研究室
- 東北大学大学院農学研究科・動物環境システム学分野



電動ポンプ

物品名 電動ポンプ(100V/8.5W)

数 量 11台

備 考 聖火皿とバイオガス容器の中間に設置。ダイヤフラム式でガスの
通り道と中の機器が隔離されている。



聖火トーチ・アタッチメント

物品名 パラリンピック聖火トーチ
(大会組織委員会提供)

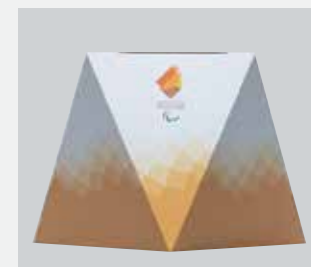
サイズ H710mm×最大φ119mm

重 量 本体950g

素 材 アルミニウム

数 量 1本

備 考 LPGカートリッジを差し込み使
用。アタッチメントは県代表者の
庄子さんに合わせて本革で製作



聖火台

物品名 聖火台

サイズ H600mm×W600mm

素 材 ボンデ鋼板

備 考 聖火皿大サイズの土器
の覆いとして使用

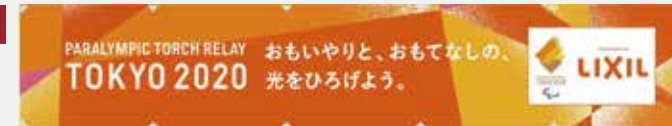
バックパネル

サイズ H2,000mm×
W12,000mm



横断幕

サイズ H900mm×
W5,000mm



LED応援スティック

サイズ H400mm×φ450mm



のぼり



サイズ H1,800mm×
W600mm